

▽▲▽▲ 漁業のプロフェッショナルを目指す ▲▽▲▽

28人の若者が入学

—静岡県立漁業高等学園—

海で働くための技術、知識、体力を全寮制(1年間)の修学で身に付け必要な資格を取得

日本の水産業の担い手を育成する静岡県立漁業高等学園は、東方に秀峰富士と駿河湾を隔てて、伊豆の連山を眺望できる素晴らしい環境にある。静岡県立漁業高等学園は、漁業を志す中学卒業以上の若者を対象に、全寮制1年間の講習において、漁業に関する知識と技能の教育・訓練を行い、漁船船員の即戦力となり、将来は漁船漁業の幹部職員となる者の養成を目的とし、これからの水産業を担う後継者の育成・教育を行っている。

空が晴れ渡り、風薫る4月6日、令和4年度(第53期生)の入学式が学園校舎で執り行われ、将来の日本の水産業を担う28人の若者たちが入学し、出席者から祝福された

4月6日の午前、入学式は開式の言葉に始まり、入学決定として入学生全員の氏名が順に呼ばれ起立すると、これからの1年間の学園生活を前に、生徒たちの緊張が教室に漲った。

続いてこの4月に新たに漁業高等学園に就任された野田浩之園長が式辞を述べ、生徒たちを激励した。

また来賓祝辞が行われた後、中野弘道焼津市長からのメッセージが代読され、学業に励む生徒たちを静岡県と焼津市が積極的に支援していくことと、将来的に水産県である静岡の水産業の担い手として、活気ある漁業をさらに盛り上げてほしいと伝えられた。

近年は水産物の優れた栄養価が世界的に認識され、国民にその水産物を供給する漁業の重要性は一層増してきている。しかし、日本における水産業の現状は、漁業従事者の高齢化が年々進行し、新たな若年漁業従事者の人数も減少している。これからの日本の水産業を担う漁業後継者の育成は、その重要性が増してきており、水産業の盛んな静岡県では、昭和45年に県立の漁業高等学園を設立し、これまでの間、992人の卒業生を沖合・遠洋漁業へ送り出してきた。

「海員だより」